

専門学校 富士リハビリテーション大学校

令和 7 年度 第 1 回学校関係者評価委員会 会議録

日 時	令和 7 年 5 月 14 日（水） 19：00～20：10		
開催場所	専門学校 富士リハビリテーション大学校 101 教室		
出席者	(1) 委員（出席 3 名、欠席 1 名）		
	氏名	所属等	選出区分
	廣瀬 真人	富士整形外科病院 理学療法士/臨床部門 統括副部長	業界関係者
	佐野 正夫	専門学校 富士リハビリテーション大学校 同窓会長	卒業生
	杉山 静香	専門学校 富士リハビリテーション大学校 後援会長	保護者
	澤田 和也 （欠席）	湖山リハビリテーション病院 作業療法士/事務長	業界関係者
	(2) 学校（出席 7 名）		
	氏名	所属等	
	宮下 正好	専門学校 富士リハビリテーション大学校 学校長	—
	遠藤 進	専門学校 富士リハビリテーション大学校 副学校長	—
	植田 英則	専門学校 富士リハビリテーション大学校 教務部長	—
	岡本 貴子	専門学校 富士リハビリテーション大学校 事務長	—
	市村 真樹	専門学校 富士リハビリテーション大学校 学生担当課長	—
	岡本 博行	専門学校 富士リハビリテーション大学校 作業療法学科 学科長	—
	大沼 賢洋	専門学校 富士リハビリテーション大学校 理学療法学科 主任	—

1 学校長挨拶

2 前回議事録確認

3 2024 年度重点目標の取り組み状況について

(1) 学生募集の強化

- ① 組織の改編：「入試広報課」を新設。事務局から 1 名を専属。さらに 2 名の増員。1 名は高校教諭 OB。
- ② ガイダンス、高校訪問の強化：業者ガイダンスの経費を増額し、ガイダンス数を増加。広報職員を増加したので高校訪問の回数を増加。
- ③ オープンキャンパスの強化：教員の OC 出勤を増やし、教員と参加者との接触を増加。職業説明・体験を工夫して取り組んだ。医療施設の方を招き、職場の現状(リハ専門職の重要性、不足、特に OT の不足)を伝えてもらう機会を設けた。東部・伊豆地区に出張オープンキャンパスを企画し、伊東市・下田市・御殿場市で各 1 回、計 3 回実施した。その地区の医療施設に協力をしていただき、理学療法・作業療法の魅力を伝えていただいた。

④ 入試状況

PT 学科 45 名、OT 学科 35 名の合格。最終的に PT 学科で 2 名の辞退者が出たが、昨年同時期（PT 学科 38 名、OT 学科 25 名）を超える合格者であった。

(2) 非常勤講師との連携強化

校内報、授業アンケート結果の郵送を引き続き行った。

4 2024 年度自己点検・評価の結果報告について

(1) 教育理念・教育目標（植田教務部長）

- ・概ね 4 とした。
- ・特色ある教育については、まだ発揮できていない部分があるため今後の課題となる。

(2) 学校運営

- ・運営方針・事業計画を定めているので全体として概ね 3 となる。
- ・教職員への周知は十分といえないため、今後の課題となる。

(3) 教育活動

- ・全ての項目で 4 とした。
- ・コマシラバスの指定はないが、今後の課題となる。
- ・臨床実習支援システムを運用して 3 年経過した。施設からも評価をいただいている。

(4) 学修成果

- ・在校生については問題ない。
- ・卒業生の社会的評価を把握する事はかなり難儀している。同窓会が動き始めてきたため、連携していきたい。

(5) 学生支援

- ・就職活動は外部ツールを利用して全学年が求人情報を確認できるようにしている。
- ・バス代・電車代のサポート制度を設けているが、1 人暮らしのアパート探しまでは支援体制が整っていない。
- ・退学率の低減には更に力を入れる必要がある。

(6) 教育環境

- ・教室・実習室は規定通りで設置している。
- ・毎日学生が清掃に努めている。
- ・学外実習地の確保は出来てるが、時期により差がある。
- ・個人情報の取り扱い規程について、周知徹底していく。

(7) 学生の募集と受け入れ

- ・入試広報課を新設し、高校と密に接触する機会を増やした。
- ・18 歳人口の減少があり、魅力のある学校づくりが急務である。

(8) 財務

- ・ヒアリングによる予算計画を作成するようになり、現場の声を反映したものとなった。
- ・物価高の影響を受け、想定を上回るケースが見られた。

(9) 法令等遵守

- ・概ね 4 である。
- ・個人情報保護規程作成が今後の課題である。

(10)社会貢献・地域貢献

- ・コロナ感染も落ち着き、ボランティアの要請が増えている。
- ・ボランティア参加は学生のモチベーション向上にもつながる事業であるため、今後も積極的に取り組みたい。

5 意見交換・質疑応答

(1) 教育活動について

- ・ 臨床実習支援システムは施設・学校・学生 3 者を繋ぐ良いシステムだと感じている。
- ・ 学生も使いやすいと言っているが、ただ、スマートフォンでも入力できるため、遊んでいるように見られることが問題点として挙げられる。全体の周知をもっと進めたい。
- ・ 現場では多職種連携が重要視されている。学生時代に合同演習が多いと、将来にとっても役に立つと感じている。
- ・ ボランティア活動も盛んにされており、良い教育効果が得られていくのではないかと感じる。

(2) 学修成果、社会貢献・地域貢献について

- ・ 同窓会も今年も総会を開催でき、活動も軌道に乗ってきている。去年は教員の声掛けから数年ぶりに同窓会主催研修会を 38 名参加で開催できた。
- ・ 今後も企画していきたいので、教員には講師として協力していただきたい。
- ・ 富士川キウイマラソンでは同窓会にも声を掛けていただき 10 名参加した。在校生とのつながりもできとても良かった。
- ・ オープンキャンパスの時に図書室を開放していただくと、学校に来る機会ができるのではないかな。
- ・ SNS を頻回に更新していてフォロワーも増えている。学生の声も発信するようにしたらよい。加えて卒業生の発信する機会も作ると募集活動だけでなく、同窓会にも良い影響が出ると思う。
- ・

(3) 学生の募集と受け入れ

- ・ 高校訪問・出張オープンキャンパスで外に出て、接触する機会を増やしたことで、具体的にその成果を示すものはあるか。
- ・ 現在それを示すものはないが、実感としては手応えを感じている。
- ・ 中学校への体験授業も開始してより、早い段階での接触をすることで職業理解を進めている。

6 2025 年度重点目標について

(1) 学生募集の強化・入学定員充足

- ・各学科が定員充足するよう目指して活動していく。

(2) 特色ある教育活動への取り組み

- ・他校との差別化を明確にし、魅力のある学校づくりを目指す。

(3)運営方針・事業計画など教職員への周知

- ・教職員会議等を通して周知し、一致した方向で進んでいく。

7 次回日程の確認

令和 7 年度第 2 回学校関係者評価委員会 令和 7 年 11 月 5 日(水)19:00～